

東亞錢志

一

東亞錢譜

昭和十三年
東京岩波書店發行

東亞錢志總目

序文

總目

凡例

前編一卷

錢幣，研究ニ關スル概念

第一章

錢幣，研究

第二章

品質

第三章

形制

第四章

名稱

第五章

文字

第六章

錢范

第七章

鑒識

第八章

古錢家ト著録

正編十七卷

東亞諸國錢幣沿革

第一章

支那

第二章

日本

第三章

安南

第四章

雜錄

第五章

年表

東亞錢志序

友人奧平容叔攻法ノ餘力ヲ錢幣ノ學ニ用平夙
ニ東亞錢志ノ完書ナキヲ憾ミ内外ノ載籍ヲ究
メ諸家ノ祕藏ヲ探リ治亂成敗制度文物ノ蹟ヲ
稽ヘ形制字文眞偽多少ノ別ヲ質シ腴ヲ咀ミ精
ヲ取リ涵蓄充溢シテ尙自ラ足レリトセズ三々
ビ支那ニ航シ又朝鮮滿洲ニ遊ビテ資料ヲ蒐集
シ沈潛思フ構ヘ砬砬纂修スルモノ三十餘年勒
シテ一十八卷ト爲シ名ツケテ東亞錢志トイフ
頃者予ニ寄示シテ曰ク子ハ我ヲ知ル者ナリ爲

ノニ一言ヲ卷端ニ并セラレヨト。嗚呼予ノ無似
何ゾ容叔ヲ知ルニ足ランヤ。然レドモ予モ亦古
錢ヲ好ミ交誼ヲ荷フコト年アリ。容叔ノ書予ノ
一言ナカルベカラザルナリ。乃チ帙ヲ緋キテ一
讀再讀シ。卷ヲ掩ヒテ贊歎措ク能ハガルモノア
リ。是ノ書帝ニ錢志タルノミナラズ。錢幣ノ研究
ニ必要ナル豫備知識ヲ悉ク具足シタレバナリ。
全編ノ結構ハ古今錢幣ノ著録ニ於テ未ダ曾テ
有ラザルトコロ。分チテ二編ト爲ス。前編ハ錢幣
ノ研究ニ關スル概念ヲ叙ス。正編ハ東亞諸國錢

幣ノ沿革ヲ叙シ、先ヅ諸國ノ史要ヲ紀シ、マ、經濟ノ事情學問ノ發達、宗教ノ傳播、風俗ノ變遷等ヲ插ミ、然ル後各種錢幣ノコトニ及ビ精妙ナル圖象ヲ掲ゲ、字文ヲ釋シ、異同ヲ辨シ、眞偽ヲ訂シ、諸家ノ謬見ヲ糾正シテ、之ヲ定説ニ歸著セシム。而シテ博引旁證、考據精詳ニシテ、創解新意多キガ中ニ予ノ最モ敬服スル所ハ、支那錢幣ノ源流ヲ究メ、朝鮮李朝錢ノ鑄造年代ヲ闡明セルニ在リ。支那錢幣ノ起原ハ古來未ダ證明セラレズ。舊説ハ之ヲ悠遠ナル太古ニ繫クレドモ、其證據ナ

ケレバ畢竟臆説タルヲ免カレズ。新説ハ之ヲ春秋戰國ノ際ニ在リトシ、證スルニ儒教ノ經傳ヲ以テスレドモ、是レ亦定説ニハ非ズ。容叔乃チ經傳ノ以テ錢幣ノ源流ヲ究ムルニ足ラガルコトヲ喝破シ、上代銅器ノ銘文、殷墟發掘物等ニ據リテ錢幣ノ殷代ヨリ行ハレタルコトヲ證明シタルハ、實ニ前人未到ノ地ヲ開拓シタルモノト謂ハガルベカラズ。又李朝錢ノ鑄造年代モ殆ト判明セズ。朝鮮通寶錢ハ太祖康獻王ノ鑄ル所ナラント云ヒ、十錢通寶錢ハ朝鮮ノ物ナリト云フニ

止マリ殊ニ常平通寶錢ノ鑄造年代ニ至リテハ
數種ヲ除クノ外ハ識ルベカラズ、惟舶來ノ前後
ニヨリテ新古ヲ區別シ古渡常平新渡常平ト云
フニ過ギザリシガ、容叔乃チ李朝實錄、日省錄等
ノ根本資料ニヨリテ委曲詳悉セリ。其斯界ニ功
アルヤ大ナリ。文モ亦簡淡雅潔、具ニ法度アリ、老
手ニ非ガレバ能ハズ。近來錢幣ノ著録ハ李氏ノ
古泉匯ヲ以テ翹楚ト爲ス。然レドモ其書主トシ
テ支那錢ヲ類聚シテ注釋シタルモノニシテ、日
本、朝鮮、沖繩、安南錢ニ關シテハ紕漏甚シク、突騎

施、回鶻、南詔、準噶爾等、錢幣：至リテハ少シモ
道及スル所アラズ。之ヲ是、書載スル所ノモノ
ニ視ブレバ、其精粗詳略日ヲ同シクシテ語ルベ
カラガルナリ。鮑子年古泉匯ニ序シテ曰ク「洋洋
乎大觀哉、後來者不可知、而空前一語、信足以當之
矣。」ト予是ノ書ニ於テモ亦云フ。
昭和八年十月前造幣局技師正三位勲二等工學
博士甲賀宜政撰

東亞錢志總目

序文

總目

凡例

前編一卷

錢幣，研究ニ關スル概念

第一章

錢幣，研究

第二章

品質

第三章

形制

第四章

名稱

第五章

文字

第六章

錢范

第七章

鑒識

第八章

古錢家ト著録

正編十七卷

東亞諸國錢幣沿革

第一章

支那

第二章

日本

第三章

安南

第四章

雜錄

第五章

年表

東亞錢志凡例

一 錢幣ノ學ハ(一)典制(二)圖象(三)文字ノ三類ニ分ツベシ。此書三類ヲ目標トシテ東亞諸國錢幣ノコトヲ記ス。然レドモ錢幣以外ノ貨幣即チ穀物布帛貝金銀楮幣等ノコトヲ述ベザレバ錢幣ノコト明了ナラズ。故ニ主トシテ錢幣ノコトヲ記シ、旁穀物布帛貝金銀楮幣等ノコトニ及ベリ。但近時西洋諸國ノ幣制ニ仿ヒテ發行シタル新式貨幣ニ至リテハ其來由ヲ略叙シテ一切圖解セズ。

一 此書分チテ二編ト爲ス。前編ハ錢幣ノ研究ニ關スル概念ヲ敘シ、正編ハ東亞諸國錢幣ノ沿革ヲ敘ス。通計一十八卷ト爲シ、序文總目凡例ヲ編首ニ掲グ。

一 錢幣ノ沿革ハ國史ノ一部分ナレバ、國史ニ通曉セザレバ之ヲ知ルニ由ナシ。故ニ先ヅ各國ノ史要ヲ敘シテ然ル後錢幣ノコトニ及ビ、編末ノ年表ト相須チテ覽者ヲシテ錢幣ノ年代ヲ領解シ易カラシム。但皇

朝ノ歴史ハ家家論サレ人人曉レル所ナレバ今復タ贅セズ。

一支那錢幣ノ源流ヲ究メント欲スル者、多クハ資料ヲ儒教ノ經傳ニ求ム。然レドモ儒教ノ經傳ハ錢幣ノ源流ヲ究ムルニ足ラザルガ故ニ此書上代銅器ノ銘文殷墟發掘物等ニ依ル。今世學界ニ於テハ此ヲ措キテ他ニ資料ナケレバナリ。

一支那上古貨幣ノ文字ハ變化甚ダ多ク、律スルニ後世ノ說又解字ヲ以テスルコト能ハズ。又上代銅器ノ銘文トモ異ナリテ解釋スベカラザルモノ、鮮カラズ。今李鮑吳劉王郭諸氏ノ說ヲ參考シ妥當ト認メタルモノヲ取其疑ハシキモノニ至リテハ妄リニ臆斷セズ。

一舊譜支那ノ錢幣ヲ論スル者往往正用品ト僭偽品トヲ別ツ。然レドモ支那ノ帝王ニハ古來一定ノ系統ナシ。其能ク國家ノ政柄ヲ握ル者ヲ其時代ノ帝王ト爲シ、其勢力衰フレバ他ノ勢力盛ナル者之ニ代ル。上下五千年、三十餘回ノ革命ヲ累ネテ天下或ハ一統シ、或ハ分裂シ國祚

ノ隆汚領土ノ大小各同シカラザレドモ、要スルニ成王敗寇、正偽ノ問
フベギモノ安クニカ在ル故ニ、今其年代ヲ逐ヒテ之ヲ叙シ、復タ正偽
ノ區別ヲ爲サズ。

一 皇朝ノ古代錢ヲ論スル者皆六國史日本書紀、續日本書紀、日本後紀、續日本後紀、實錄、三代實錄ヲ
以テ宗ト爲ス。然レドモ近時金澤文庫ニ於テ發見シタル朱雀朝ノ勅
撰「秘庫器錄」ノ殘缺本ニ據レバ六國史紀スル所ヨリモ詳細ナリ。此書
秘庫器錄ノ殘缺本ニ從フ。

一 舊譜中皇朝錢ヲ首ニ載セ、然ル後支那朝鮮安南等ノ錢ニ及ボシテ國
家ノ體面ヲ保維スル所以ナリト云フモノアリ。然レドモ國際上ノ關
係ト學問上ノ關係トハ同シカラズ。學問ニ國境ナシ。皇朝ノ錢制ハ範
ヲ支那ニ取リシモノナレバ先ヅ支那錢ヲ記シテ、然ル後皇朝錢ニ及
ブハ當然ノ順序ナリ。然ラザレバ本末顛倒ノ嫌アリテ研究上便ナラ
ズ。歐米人ノ萬國史ヲ著ス者ハ必ズ先ヅ埃及希臘羅馬等ノ錢ヲ記シ、
次ニ支那ノ錢ヲ記ス。此ノ順序ハ學問上ノ關係トシテ、國家上ノ關係
トハ別ナリ。

ヲ敘シ然ル後歐米諸國ノコトミ及ベドモ爲ノニ歐米諸國ノ體面ニ
關セザルガ如ク支那錢ヲ首ニ載セ皇朝錢ヲ後ニ掲ゲクレバトテ皇
朝ノ體面ヲ害スベキ謂ナシ故ニ今先ヅ支那錢ヲ記シテ繼グニ皇朝
錢ヲ以テス。

一厭勝吉語錢繪錢別錢ノ類ハ形錢ニ肖タルガ故ニ錢トイフト雖モ其
實貨幣ニ非ザレバ歷代正用錢ト伍スベカラズ嚴正ニ論スレバ錢志
ニ入ルベカラザルモノナレドモ往往鑒古考證ニ資スベキモノアリ
因テ舊譜ノ例ニヨリテ之ヲ摺斥セズ其中若干品ヲ擇ビ雜錄ト題シ
テ歷代錢ノ末ニ附ス。

一此書載スル所ノ圖象ハ確實ナル原品ヲ搨摹シ若リハ撮映シ又ハ他
ノ書ヨリ轉寫シタルモノニシテ擴大セズ縮小セズ。一ヨシテ實物ノ
大小ヲ知ルベシ。

一舊譜中錢ノ大小輕重及ビ存在ノ多寡ヲ一一記載スルモノアリ。然レ